高倉獅子舞

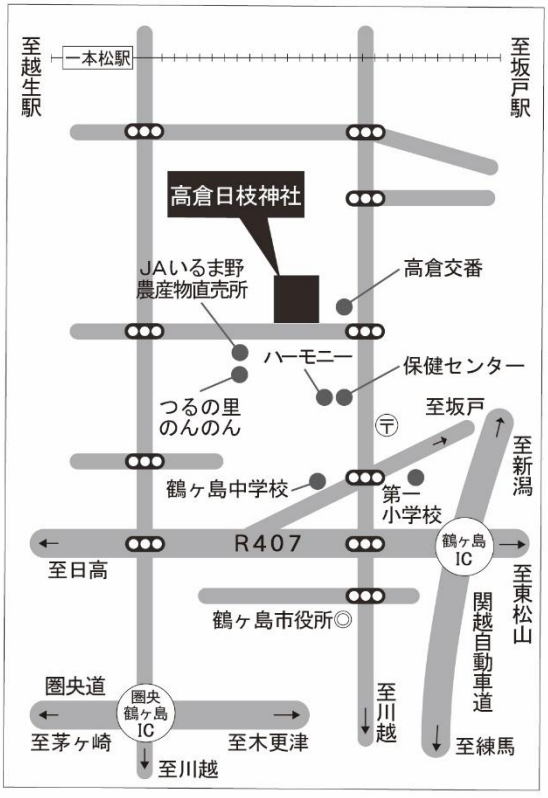
獅子舞はササラジシともいわれ、獅子が舞うことを「クルウ」といいます。この舞は、遠い国から訪れた強力な神が、ムラ人の幸福を守るために、悪霊・悪疫を退散させてくれる芸能ですが、ムラ人にとっては五穀豊穣感謝の行事でもあります。

獅子舞は県内に二つの系統があり、一つは秩父を源流とする山岳系統のもの、他の一つは川越を中心とする平野系統のものです。

高倉の獅子舞はこの二つを折衷した山麗系統のものだといわれています。宮参りのときに、社殿を三廻りしてから、前庭で本番をクルウなどの特色があります。

この行事は昭和５３年までは毎年１１月８、９、１０日の３日間、日枝神社祭典に合わせて行われていました。８日は揃いの日で、総仕上げとして予定の演技を行い、９日は祭典当日で、１０日はムラ廻りをしていました。その後、令和７年度までは１１月２，３日の２日間で行われており、令和８年度から１０月最終日曜とその前日の２日間で行われています。

会場案内図



構成　万灯、貝吹き(ほら貝を吹く)、天狗、花笠、はいおい(軍配を持って案内する)、前獅子(男獅子)、中獅子(女獅子)、後獅子(男獅子)、笛吹き、歌うたいなどです。時には、ひょっとこ、おかめの道化も加わります。

花笠　「ささらっ子」ともいう。四人の童子が女装する。振袖の着物に黒足袋、紅白の鼻緒の草履をはき、手にササラを持って、花笠をかぶる。花笠は黒塗りの筒型のもので、まわりに赤い縮緬(ちりめん)の布が巻いてあり、四方に垂れさがっている。筒形の上には、竹に付けた花がささり、花の中央には、お月さま二つ、お日さま二つを交互にさしてある。

はいおい　「幣負」ともいう。陣羽織とたっつけを着て、赤いたすきをかけ、鉢巻きをして、黒足袋にわらじをはく。右手に軍配、左手に采配を持つ。獅子を導いたり励ましたりする。

獅子　前獅子の頭は白檀(びゃくだん)塗りで、らせん模様の角と鳥羽がつく。

中獅子は朱塗りで角はなく、頭髪は前獅子の鳥羽に対し、馬の毛がつく。

後獅子は黒塗りで、飾りなどは前獅子と同じである。

三頭とも、後部に紙の垂(しで)を垂らして水引をつける。こがすりの襦袢(じゅばん)とたっつけを着て、太鼓を前につけ、バチを持つ。

曲目　宮参り・池端・岡崎・送笛・吹上げ・聖天(しょうてん)ばやし・女獅子かくし・どじょう猫・竿がかり・吹上げくずしなど

舞　舞踊だけの儀礼的なものと、演技的なテーマをもつものがある。後者には「女獅子かくし」、「竿がかり」など。

県下で二百を数えた獅子舞は、戦後ほとんど中断され、市内でも十ヶ所ありましたが、現在残っているのは高倉の獅子舞だけです。

地元では保存会が結成され、伝統を守り続けています。

１０月２４日午後１時より

高倉日枝神社を出発し、稲荷神社、高福寺跡において、「女獅子かくし」、「竿がかり」の二舞いが行われます。

１０月２５日正午より

高倉日枝神社において、「女獅子かくし」二舞い、「竿がかり」一舞いが行われます。

※この記事には高倉獅子舞保存会の方々のご協力を得ました。

「ヒーヒャ、ヒートヒャヒヒ」と宮参りの笛の音が青空高くひびきわたる高倉の秋祭りを楽しみに待ちましょう。